

岩崎博充

日本人が
知らなかつた

海外口座 資産運用術



本書で
取り上げる
海外銀行&
証券会社

HSBC香港(香港)
Phillip証券(シンガポール)
BOOM証券(香港) Lightspeed(アメリカ)
Union Bank(アメリカ)など

ゼロ金利の日本ではできない お金の殖やし方!

SE
SHOEISHA

さらに、ヘッジファンドのマネージャーは自分の資産をそのファンドに拠出することが決められている。ファンドマネージャーにとっても運用に自分の資産の命運がかかっており、失敗は自分にも跳ね返ってくる仕組みになっている。

ちなみに、日本でヘッジファンドを購入するには、次のような機関が取り扱っている。ただし、国内で設定されて、日本国内で運用されているヘッジファンドはあまりお勧めしない。タックスヘブンなどに基金の籍を置いても、金融工学などを駆使できるスタッフが圧倒的に少ない。豊富な人材が揃う欧米系のヘッジファンドの方がベターだ。

●スーパーファンド証券

コンピュータによるプログラム売買を用いて、商品市場、金利（債券）、為替などなど、あらゆる金融商品で利益を取りに行くヘッジファンド。1995年にオーストリアのウィーンで設立され、現在はオーストリアに加えて、アメリカや日本を含む14か国でマネージド・フューチャーズ・ファンドを販売している。ホームページなどを通じて、日本語での情報提供が行われており、

図5-7：オープンエンド契約型投資とヘッジファンドの違い

比較項目	ユニットトラスト	ヘッジファンド
投資対象	株式、債券、マネーマーケット	株式、債券、コモディティ、デリバティブ
投資戦略	買いのみ、レバレッジなし	買いと売りの両方に可能。または両建てなどによって、市場のエクスポージャーをゼロにすることも可能。レバレッジは可能
成功報酬	なし	あり
利益創出	マーケット・パフォーマンス	ファンドマネージャーのスキルによる
運用益	ベンチマーク指数が目安	ベンチマークを超えることを目指す絶対リターン型
評価	日々	通常、毎月もしくは四半期ごと
投資最低額	最低1,000ドル程度	ファンドによる
情報の透明性	相対的に高い	相対的に低い
リスクの度合い	ベンチマーク指数と同程度	株式投資よりも小さい

実際にファンドの購入なども最低10万円以上から購入できる。

<http://www.superfund.co.jp/>

●アブラハム・プライベートバンク

ヘッジファンド2万社の情報を持っている。ただしヘッジファンドを販売しているのではなく、ヘッジファンドなどへの投資を行う際の助言をするための会員制サービスだ。純金融資産1億円以上の人が入会できるプライベートクラブ「YUCASEE（ゆかし）」など、富裕層向け事業に実績を持っているアブラハム・グループ・ホールディングスの100%子会社。

<http://abraham-bank.com/>

●シティバンク銀行

米国シティグループの傘下にある、CitiBankの日本法人。日本において口座を開設し、一定の預金がある顧客であれば、ヘッジファンドを斡旋してもらえる可能性がある。

<http://www.citibank.co.jp/>

●ヘッジファンドジャパン

海外のヘッジファンド情報を提供するヘッジファンドと個人投資家を対象とした英語／日本語対応のホームページ。ヘッジファンドを販売しているのではなく、すでに実績のあるもしくは新規設立直後または設立準備中のヘッジファンドと、投資家との橋渡しを行っている。

<http://www.hedgefundjapan.jp/>

●三菱UFJモルガン・スタンレー証券

名前のとおり、日本の三菱UFJ証券ホールディングスが、米国のモルガン・スタンレー日本法人投資銀行部門を統合したことによって生まれた証券会社。現在は、以下の2種類のヘッジファンドを継続募集中。

<http://www.sc.mufg.jp/>